Sense of Mission Vol.2　　5月号　2023年4月27日発行

～年間聖句～「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。」 コロサイ書 3章15節

「避難訓練」の先にある学び

先日、避難訓練を実施しました。担当の平野生徒指導部主任、お疲れさまでした。

多くの学校では避難訓練をはじめとする防災教育を長年行っていますが、その形骸化をどう防ぐかを課題にしているところは多いと思います。地震などの自然災害がいつ、どこで発生するかわからない中で、生徒に危機的な状況を生き抜く力を十分育てることができているか疑問です。

防災教育の本来の目的は、想定外の状況が起きても、自分の命を守るために、主体的に判断して行動する姿勢と力を生徒一人一人に確実に育むところにあります。しかしながら、どんな力をつけさせるかというより、知識を機械的に教えたり、マニュアルに沿った予定調和的な避難訓練が行われたりすることが多い気がします。

東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市の小中学生は、その時が放課後の時間帯にもかかわらず99.8%が津波の難を逃れ、「釜石の奇跡」と言われました。小１の子どもが自宅に一人でいたケースもあったと聞きます。その子どもは自分の判断で必死に高台へ逃げて助かったということでした。私たちの防災教育はそうした力（判断力・行動力）を育てるものになっているのでしょうか。

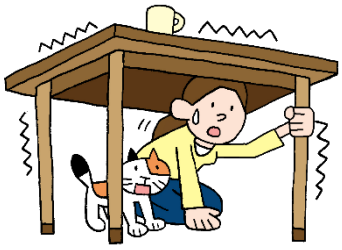
被災した地域の感度の高い学校は当然防災教育に力を入れています。ただ多くの学校からは「防災教育を行う時間の捻出が難しい」といった声を聞きます。だから、社会科の授業で川の流れと土地の変化を観察したり、数学科の授業で津波の速さを計算したりなどの工夫もしています。でもそれはあくまで教員個人の取組になっています。

これからの防災教育は、自然の恵みと災いの二面性を伝え、いざというときに生き延びる力を育むことが大切だと言われています。災いだけだとそんな危険なところに住みたくないというマイナスイメージのみが植えつけられます。だから防災教育は、地域理解、郷土愛、他者への思いやり、命の教育など総合的に多面的に生徒の内発性に働きかける側面をもたなくてはなりません。そうすると防災教育を通して、メタ認知能力の向上につながります。それが生徒の成長を促し、生徒指導上の問題を解決したり、学習意欲が高まったりするのです。また、防災教育は自治体や地域と連携することが重要でもあります。自治体によってはその連携を実現しやすくするために防災教育コーディネーターが配置されているところもあります。本校の生徒たちは様々な地域から集まっています。それぞれの地域性はあると思いますが、学校としては先に書いたように、自分の命を守るために主体的に判断し行動する姿勢と力をつけていくことを本質として考えます。

この本質を分かりやすくお話しすると、『「お母さんが迎えに来るから」と逃げずに親を待とうする子どもがいた。**「あなたが一人で逃げる力があれば、親は危険を冒してまで来なくていい。あなたが生き抜く力つけることは家族の命を救う」**』ということです。

これは生徒に対して、「自分で判断する力がついているか」という問いのつもりです。そして、日常の学校生活での様々な場面で、そのことを自問自答してほしいと思います。

みなさんに意識してもらいたいことは、避難訓練をキリトリ的に捉えるのではなく、体育祭、女学院祭などの学校行事や定期テスト、模試や入試などのテストの取り組みと同様に、日々の「自律型学習者」になるための思考と行動の質の向上が大切ということをわかってほしいと思います。



（学校長　重枝　一郎）